

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2023年度 第3号

事務局：〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学 外国語学部 平野亜也子研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2024年1月31日発行



第 27 回卒論・修論研究発表セミナーのお知らせ

2024年2月12日 会場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

日時：2024年2月12日（月・祝）9:30～17:30

会場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

参加費：KELES・JACET・LETいずれかの会員
であれば無料、上記学会の非会員は500円

当日はスペシャル・トーク講師に望月正道先生（麗澤大学外国語学部 教授）をお迎えして、「生きる力を育てる英語の授業」というタイトルで、ご講演いただきます。

また、学生・院生の皆さんにご発表いただきます。英語教育に関する様々なテーマで執筆された力作が

集まっております。将来の英語教育をともに考える同志たちとの語らいの場とするためにも、先生方に励ましの言葉をかけていただけましたらありがたく存じます。

多くの方にお越しいただき、実り多きセミナーになればと思っております。ご参加、心よりお待ちしております。

詳細はKELES ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.keles.jp/?p=4694>

報告 関西英語教育学会 第58回 KELES セミナー

開催日：2023年11月12日（日） オンライン（Zoom）開催

第58回 KELES セミナーでは、「今こそ充実したリーディング指導を！」をテーマとして、成城大学の細田雅也先生と、駒沢女子大学の中野達也先生にご講演いただきました。

学会や研修会で、アウトプットをテーマにしたセミナーが数多くあります。しかし、良質なアウトプットに欠かせないのがインプットです。今回は、リーディング指導のあり方を理論と実践の両面から講演していただきました。

「理解できる」とはどのような状態なのかを理論の面からお話しくださり、またそのような状態に生徒を導くための指導のあり方を具体的にお話しくださりました。効果的なインプットを考える大変貴重なセミナーでした。

お申込み・ご参加いただいた81名の皆様に心から感謝申し上げます。次頁で、報告を記します。

「英文読解の認知メカニズム：
テキストからの学習とその指導に向けて」

講師：細田 雅也先生
(成城大学)

本講演では、現代社会において「読むこと」の重要性を唱えたいと、何をもちて英文を「理解した」と言えるかを理論的枠組みから詳細にご提示いただいた。ご講演の冒頭では、テキストを理解するということがどのような状態かを、英文を用いて具体的に説明いただいた。その中で、英文読解を行う際に、単語レベルや短文レベルでは容易に和訳できたとしても、結局全体として筆者が何を伝えたいのか大意を取ることは案外難しいことを体感した。そこで英文を理解するとは「テキストが言いたいことに対して首尾一貫したイメージ（心的表象）を心の中で作ること」で定義された。

英文読解における理解の定義後、Kintsch のテキスト理解理論を詳述いただいた。テキスト理解理論には3つのレベルがあり、(1)表層的記憶、(2)テキストベース、(3)状況レベルに分類されることを示された。(1)表層的記憶とは、語句そのものに対する理解である。(2)テキストベースは、明示的にテキストが示している意味理解である。そして、(3)状況モデルとはテキスト情報と読み手に知識が統合された表象である。Kintsch のモデルによると、テキスト理解とは状況モデルが構築できていることを指す。

状況モデルに至ることに重要性を示された上で、状況モデルの具体的なプロセスを解説いただいた。その中で、「推論生成」と「因果関係の理解」を紹介された。特に説明文の読解においては、テキストの情報間の因果関係の理解の鍵になることを強調された。

理論の説明後、状況モデルをどのように測定するかに関する解説をされた。英文和訳を求めることでは、状況モデルの測定において多くの限界点があると述べられた。一方で、推論問題と問題解決課題を問うことが、状況モデルの主な測定手法であることを紹介された。その上で、推論問題の難点を採点の信頼性と妥当性担保の困難さから主張された。

最後に指導的側面に焦点を当て、訳読や英文解釈はテキストベースを効率的に構築する手段であり、英文読解の最終目標ではないことを強調された。

報告者：新本 庄悟 (京都産業大学)

「リーディング力や速読力向上の
具体的なトレーニング方法」

講師：中野 達也先生
(駒沢女子大学)

中高教員のご経験をもとに、速読とそれに関連する様々な活動を、以下の5つの観点から解説された。

① 速読について：速読指導のポイントとして、読解時間の記録、内容理解問題に答える際に読み直しをしないこと、正答数の記録などを紹介された。既存の速読教材に共通する課題として、やり方の説明がないこと、WPM (Words per Minute) の目標設定がないこと、パッセージの文字数が一定でないことなどを挙げられ、それらを解決した教材として『速トレ』も紹介された。

② 語彙指導と速読：語彙知識の「広さ」と「深さ」に加え、「速さ」、つまり「いかに早く単語の意味が言えるか」という概念を紹介された。また、速読の効果を高めるためには、瞬時に視認できる語彙 (サイトワード) を増やす重要性にも言及された。単語帳も自学自習させるだけではなく、授業の帯活動で音読練習をしたり、単語テストの際も瞬時に意味処理ができるようテストの問題数を多くするなどの工夫を提示された。その他、単語のアクセントの知識を向上させるための取り組みもご紹介いただいた。

③ 多読指導と速読：先生ご自身が実施された多読指導についても紹介いただいた。洋書の貸し出しを行い、生徒はそれぞれの本の感想記入と語数累計が求められた。読書量の多い生徒名を掲示したり、多読の方法や生徒の感想をニューズレターとして発行したり、表彰されたりといった工夫もされていたとのことだった。

④ 心内音読と速読：心内音読とは、黙読しながら頭・心の中でそれを音声化していることと示された。心内音読の際に単語の音韻符号化ができない結果、速読が妨げられている可能性に触れつつ、発音できる語彙を増やし、音韻符号化の自動化を促進することで速読の効果を高められることを示唆された。

⑤ 音読指導と速読：パワーポイントを使って、速読のスピードを固定する音読を紹介された。その際も、英文を見て制限時間内に読む練習、チャンクに区切って読む練習、キーワードだけ残して元の文章を再生できるかという練習まで、ステップを踏んでの指導が重要だと学んだ。

報告者：山形 悟史

(関西大学第一高等学校・第一中学校)

報告 関西英語教育学会 第 59 回 KELES セミナー

開催日：2023 年 12 月 17 日（日） 龍谷大学梅田キャンパス研修室

第 59 回 KELES セミナーでは、「効果的な英語音声・スピーキング指導法」をテーマとして、大阪公立大学の中川智皓先生と大東文化大学の静哲人先生にご講演いただきました。アウトプット活動を支える教師の指導方法を学ぶことができた、大変有意義な講演内容でした。

ご参加いただいた 50 名の皆様に心から感謝申し上げます。以下、報告を記します。

第 59 回 KELES セミナー 「効果的な英語音声・スピーキング指導法」

「スピーキング力向上のための 即興型英語ディベート」

講師：中川 智皓先生（大阪公立大学）

中川先生にご紹介いただいた即興型ディベートは、教室内に「話す環境」と「考えざるを得ない環境」の 2 つを作り出すことで、生徒のスピーキング力を向上させるものである。すべての生徒は割り当てられた役割のもと、相手に向かって話す。「誰かが聞いてくれる」ことで「話す」環境が生まれる。意見を伝えあう場が用意されているため、生徒は考えざるを得ない状況になる。

即興型ディベートが準備型のものとは異なる点は二つある。一つは、インプットとしての Reading 教材やビデオ視聴、生徒の下調べに、時間をかけない点である。50 分の授業内で完結し、かつ生徒がたくさん活動できるというメリットがある。10 人で 1 チームを組み、15 分の準備時間で、賛成派 4 人・反対派 4 人それぞれが順番に、2 人のジャッジに向かって自分の意見を言い、最後にジャッジが判断を下す。40 人学級では 4 チーム同時に実施が可能である。

もう一つは、証拠を多く並べ相手を論破するディベートではなく、相手を説得させるという点である。そのため、「相手に伝わる英語」を話すことが前提となり、身振りや表情を使った表現力、意見や反駁を分かりやすく話すプレゼン力が必要となる。また、相手を説得させるために、自分の意見とその根拠を

論理的に組み立てていく必要がある。説得される側のジャッジは、肯定と否定それぞれのラウンドで話された内容のみを比較し、両者の差は何か、その差はどのように良かったのかを、根拠を添えて述べる。このように、即興型ディベートは、英語力だけでなく、論理的思考力、幅広い知識、プレゼン力、チームで協力するコミュニケーション力を養う。

フローチャートにも工夫がある。発言の順番にメモを縦に取ったあと、その時系列に書かれたメモを横一列で見れば賛成側・反対側の論点が捉えられる。

たとえ教師の目に「うまくいかなかった」と映る活動でも、実施後の生徒の気持ちの変化は大きい。生徒は限られた時間内でどんな視点があるのかを考え、それをどう言えば良いのかを考える。この「自分の言いたいことを考える」ことに意味がある。

質問タイム「POI」において、初めは生徒の質問が出ないことが多い。そんな時は、「もう一度言って」の質問からスタートさせ、「自分がわからないことを聞く」ことに慣れさせていくとよい。

「即興型英語ディベートのルール」のアニメーション動画は、中川先生より授業での使用可とっていただいた。セミナーでの配布資料と合わせると、すぐにでも自身の教室で実践可能である。また、手だてとして、生徒の英語力に応じて単語シートを配布し、それを組み合わせれば意見が言えるようにしておくというヒントもいただいた。

ルール徹底のために、まず日本語でやってみることや、生徒が出したアイデアを教師が英語にし、その表現を発音練習してからディベートを行う、という方法もフロアからあがった。これに対する中川先生からのご返答は、生徒の実態に応じてそのように行うことも良いし、また、新しい論題に多く触れさせる目的ですぐにディベートに入っても良いとのことであった。ディベートはやってみることで気づくことが多いため、生徒自身がどのような力がディベートに必要なのかを実感することで、動機付けも高まる。生徒のやる気に火をつけるためにもまず実践を、と前向きな気持ちになったセミナーであった。

報告者：堀米 美恵子（箕面市立第四中学校）

「音声指導の心・技・体 ～音連続とリズム可視化のための英文マークアップの試み～」

講師：静 哲人先生

(大東文化大学)

日本人識者の英語スピーチを聞き、とても残念だと感じることもあると講演の前置きをされ、英語は文字で見た時と音を聞いた時とのギャップが大きい言語であり、日本人は文字に影響されているのが原因の一つだと言及された。そしてそれを逆手にとり、視覚的にリズムやリンキング、脱落といった音の特徴を普段使っているMSワードやパワーポイントを使用し、それをうい指導できるようなマークアップ方法を考案された。また、システムティックにすることにより、学生自身にも行わせ、意識化をはかることができ、スピーキング力だけでなく、リスニング力向上にも寄与することを述べられた。

本講義では、2つの具体的教材を用い、どちらも参加者が体験を行った。1つ目は、TED talk の The psychology of your future self*1 を使用し、ステップを踏んだマークアップの方法を教示していただいた。

- ①【ポーズ】明らかにポーズをいれている箇所にスラッシュを挿入する。
- ②【非開放】非開放の破裂音があれば該当文字を()に入れる。
- ③【リンキング】子音+母音(または半母音/j/)のリンキングがあればアンダーバーでつなぐ。
- ④【帯気】顕著な帯気音 (t) があれば、当該の t の次に上付きの h をつける。

⑤【脱落】明らかな脱落があれば、in'のようにアポストロフィを使って表現する。

⑥【文ストレス】目立たない音節のフォントサイズを3クリック分小さくする。

⑦【文ストレス強調】もし対比や強調で強く言っていると感じる音節があれば、そこを太字にする。

⑧【子音ハイライト】r, l, th, f, v, w, y, n, ng にハイライトを施す。

⑨【母音の文字色強調】/æ/を表す a、/ə:r/を表す er/ur/ir を赤字にする。下図が一例である。

2. What I wan'to con'fidence you today / is his(t) all d us are walking a'round with an_Us(s)id, / an_Us(s)id his(t) his(t), our personal his(t) / has jus(t) come to all end. / his(t) we jus(t) recentl(y) become the people / his(t) we / were always meant to be / and) will be for an fest_our his(t) 3. Now / we as(ked) people to predict) h us, / to t'ell us / how much money they woul(d) pay fight) now / to see their current) music(al) / perform in coffeet / t'een years from now. 4. and on_Us(s) / people sail(d) they woul(d) pay a hundre(d) r' t'wenty-nine dollars for the(t) t'icket) and) ye(t), whil we as(ked) them how much they woul(d) pay / to see the pers(son) who was the_ (a)rd)(e) t'een years_ago perform today, / they say only eighty dollars.

もう1つは、Mariah Carey の有名なクリスマスソングである All I want for Christmas is you の歌詞にマークアップを行い参加者全員で練習をした。

最後に、現在のウクライナやガザの状況を鑑み、楽しいクリスマスソングも良いが、Grown-up Christmas List というメッセージ性のある歌も紹介していただいた。

個人的にも洋楽を歌えるようになることで、英語の音の特徴を体得し、スピーキングだけでなく、4技能にも十分応用が効くと考えているが、マークアップを学生自身ができるようになることでより効果的な意識化ができると確信できたご講演だった。

*1:https://www.ted.com/talks/dan_gilbert_the_psychology_of_your_future_self?language=eo

報告者：竹田 里香 (立命館大学)

学会事務局からのお願いとお知らせ

学会費未納の場合のお取り扱い

KELES 規約では、当該年度の学会費納入締切日は2月末日となっております。それまでに学会費納入をいただけない場合、ご退会と判断させていただきますこと、ご了承願います。

2024 年度の全国英語教育学会 (福岡工業大学)での発表資格は、2 月末日までに会費を納入された会員様のみとなっておりますので、ご注意ください。

なお、学会費が未納の方には、お名前を記入した「学会費納入のお願い」を、本 Newsletter と一緒に同封しております。払込先を記載しておりますので、納入をお願いいたします。

お知らせ

第 58 回セミナーの動画を会員限定で 2024 年 2 月末日まで公開させていただきます。会員の方は、1 月末に郵送した Newsletter の二次元コードを読み取り、サイトにアクセスしてください。会員以外の方への共有はお控えください。